

【資料2】佐倉市産業振興ビジョン 進捗管理シート（令和2・3年度）

1. 商業振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	地元商店街を利用する市民の割合	30.0%	-	35.1%				40.0%
	「商店街空き店舗等出店促進補助金」の支援件数	3件／年	6件	7件				35件 （5年間の累計）
	起業塾（入門編）受講者の創業者数	7人／年	5人	3人				35人 （5年間の累計）
	佐倉市スマートオフィスプレイスの登録者総数	-	317人	648人				400人
	地域職業相談室への市内相談者の就職率	11.8%	-	35.1%				15.6%

2. 工業振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	市内法人数	3,377法人	3,443法人	3,471法人				3,640法人
	企業誘致助成制度新規利用企業数	3社／年	4社	3社				10社 （5年間の累計）
	企業誘致助成制度活用による市内雇用人数	18人／年	5人	0人				100人 （5年間の累計）

3. 農業振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	認定農業者件数	112件	121件	127件				142件
	新規就農者数	6人／年	6人	7人				10人 （5年間の累計）
	商談会シートの作成件数	-	2件	0件				40件 （5年間の累計）

4. 観光振興	指標（KPI）	基準値 （H30）	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 （R6）
	観光入込客数（イベントを除く）	147万人／年	123.3万人	88.6万人				156万人／年
	観光協会の情報発信への「いいね」数	56,752いいね	51,014いいね	28,406いいね				

# 1. 商業振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
地元商店街を利用する市民の割合	30.0%	-	35.1				40.0%
「商店街空き店舗等出店促進補助金」の支援件数	3件/年	6	7				35件(累計)
起業塾（入門編）受講者の創業者数	7人/年	5	3				35人(累計)
佐倉市スマートオフィスプレイスの登録者総数	-	317	648				400人
地域職業相談室への市内相談者の就職率	11.8%	12.5%	12.2%				15.6%

## ① 現在の課題

- ・商店街地区をはじめ、市内では使用されていない「空き家」や「空き店舗」が増加しています。
- ・経営者の高齢化や個店の廃業などにより、活動を維持することが困難な商店会がでてきています。各商店会において、将来を見据えた商店会の組織強化や活性化事業計画の策定、次代を担う後継者・人材育成が必要となっています。
- ・多くの商店会で共同施設（街路灯など）が老朽化しており、事故発生を防止するために修繕を行う必要があります。
- ・コロナ禍に入った令和2年6月から千葉県内の有効求人倍率は1倍を下回っており、県内の雇用情勢は約1年半前から厳しさが続いています。

## ② R2・3年度に実施した事業、成果

- ・主に商店街地区での空き店舗対策として、6ヶ月以上空いている「空き家」や「空き店舗」を使用して新たに事業を始める方に対し、補助金を交付しました。(R2：7事業者、R3：7社)
- ・個々の商店会員店舗の独自商品開発や商店街地区のにぎわい醸成を目的として開催するイベントやイルミネーションなど、『商業及び商店街の活性化』を目的として商業団体が実施する事業に対して補助を行いました。(R2：21事業、R3：23事業)
- ・商店会が保有する共同施設（街路灯など）の設置や修繕事業に対して補助を行いました。(R2：9事業、R3：9事業)
- ・起業塾（入門編）を開催。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策から非対面のオンラインで開催しました（R2：開催1回・参加者64名、R3:開催1回・参加者42名（R4.3.12にもう1回開催予定））。
- ・佐倉市スマートオフィスプレイスでは、新型コロナウイルスの影響によるテレワーク需要の高まりなどから、登録者が増加しました。
- ・例年開催している「産業まつり」については、令和2年度はコロナの影響で中止としたものの、令和3年度には「佐倉・産業大博覧会」としてアグリフォーラムと合同開催し、市内事業者の活動を市民に広く啓発しました。日時：R3年11月13日（土）、14日（日）於・草ぶえの丘。市内事業者等63事業者・団体の出展がありました。
- ・千葉県ジョブサポートセンターやジョブカフェちばとの共催で就職セミナーを実施しました。  
(R2)実施回数：3回、参加市民数：17名 (R3)実施回数：3回、参加市民数：14名
- ・障害者雇用に積極的な事業者を表彰し、事例紹介することで、市内企業の障害者雇用を促進する「さくらユニバーサルカンパニー表彰」事業を実施しました。2事業者からの応募があり、審査を経て2事業者の表彰及び各種広報媒体での雇用事例紹介を行いました。
- ・障害者を新たに雇い入れた市内事業者に対し「佐倉市障害者雇用促進奨励金」を交付しました。(R2)交付企業：8社、交付額356万2500円
- ・従業員を被共済者として退職金共催契約をした中小企業者に対し、その掛け金の一部を補助する「佐倉市中小企業退職金掛金補助金」を交付しました。(R2)交付企業：38社、交付額112万3100円

## ③ 施策の方向性

- ・産業大博覧会を引き続き開催し、市民への産業啓発を行います。
- ・産業大博覧会のコンセプト見直しや、他の市内産業啓発手法について、事業者の意見を伺いながら研究し、出展事業者の増加を図ります。
- ・商店街等の空き家、空き店舗解消を図るため、これらの物件を活用して出店する事業者に対して引き続き支援を行ってまいります。
- ・商店会の活性化を図るために、引き続き支援を行ってまいります。
- ・市内の潜在的な障害者雇用優良事業者の発掘のため、今後もさくらユニバーサルカンパニー表彰事業を続けていきます。

## ⑤ その他、R2・3年度のトピック等

- 【R2】
- ・佐倉市商店街空き店舗等出店促進補助金の利用実績が過去最高の7件となった。空き店舗等を活用した開業は今後も増加すると予想されます
- 【R3】
- ・街中にぎわい推進事業補助金にて、申請された事業についての審査を行う「街中にぎわい推進事業検討委員会」を設置しました。
  - ・11月に「佐倉・産業大博覧会」を開催。31社の商業事業者が出展。
  - ・市内事業者の障害者雇用啓発を目的とし「さくらユニバーサルカンパニー表彰」事業を創設しました。

## 2. 工業振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
市内法人数	3,377法人	3,443法人	3,471法人				3,640法人
企業誘致助成制度新規利用企業数	3社/年	4社	3社				10社 (5年間の累計)
企業誘致助成制度活用による市内雇用人数	18人/年	5人	0人				100人 (5年間の累計)

### ① 現在の課題

- ・市内工業団地等の企業立地適地は飽和状態であり、企業誘致事業を推進する上で用地不足が大きな懸案事項となっています。
- ・圏央道の開通等、周辺環境の変化により自治体間競争が激化することが見込まれており、既存企業の移転や事業規模縮小を防ぎ、市民の安定した雇用を確保するため、企業の設備投資等の新たな事業展開に必要な支援を行う必要があります。
- ・各工業団地は造成から相当年が経過しており、道路や排水設備等のインフラ整備の必要がでてきています。工業団地付近の道路補修や幹線道路の渋滞対策等について、商工会議所や工業団地連絡協議会等と情報交換を密に図りながら、関係部署と連携して改善に努める必要があります。

### ② R2・3年度に実施した事業、成果

- ・企業支援ワンストップサポートデスク（市産業振興課内に設置）で進出相談から開発等に伴う各種行政手続、進出後のフォローに至るまで一貫した対応を行いました。
- ・企業誘致助成金の対象となる指定企業を3社（R2：2社、R3：1社）指定しました。
- ・企業誘致助成金を9社（R2：9社、R3：9社）に交付しました。
- ・生産性向上を図り、工場の増設や機械の高度化等を行う企業20社（R2：9社、R3：11社）に対して、先端設備等導入計画の認定を行いました。
- ・佐倉工業団地連絡協議会、佐倉第三工業団地連絡協議会に対し、補助金を交付しました。
- ・上記の両協議会が、事業者交流や情報交換、地域貢献活動を行っており、コロナウィルスの影響により一部事業が中止となったものの、地域清掃等の美化活動などを通じて、事業者間の交流が図られました。
- ・両協議会を通じて、国・県・市の事業を周知するなど、情報発信を行いました。また、協議会からの地域における改善要望について、関係課と連携し対応しました。
- ・「佐倉・産業大博覧会」を開催し、工業展には、市内事業者20団体の出展がありました。
- ・ハローワーク成田との共催で、市内工業団地企業と求職者のマッチングの場として「工業団地面接会」を実施予定。（R4年3月11日開催予定。参加予定企業数：10社）

### ③ 施策の方向性

- ・新たな産業用地の確保について、検討します。
- ・市外企業の進出促進、既存企業の留置のため、工場の新設や再投資等に対して企業誘致助成金（固定資産税・都市計画税額分の助成、地元雇用促進奨励等）等により引き続き支援します。
- ・両工団連の活動がより積極的に展開されるよう、引き続き支援します。
- ・商工会議所、工団連、事業者の協力を得て、事業者の交流機会を増加させます。
- ・産業大博覧会を引き続き開催し、市民への産業啓発を行います。
- ・産業大博覧会のコンセプト見直しや、他の市内産業啓発手法について、事業者の意見を伺いながら研究し、出展事業者の増加を図ります。

### ⑤ その他、R2・3年度のトピック等

#### 【R2】

- ・コロナウィルス感染症の拡大の影響により、産業まつり等の対面型イベント、セミナー等が中止。

#### 【R3】

- ・11月に「佐倉・産業大博覧会」を開催。工業展には20者が出展。
- ・ちばリサーチパークにおいて、連絡協議会の組織化に向けた立地企業間の対話を開始。



### 3. 農業振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
認定農業者件数	112件	121件	127件				142件
新規就農者数	6人/年	6人	7人				10人 (5年間の累計)
商談会シートの作成件数	-	2件	0件				40件 (5年間の累計)

#### ① 現在の課題

- ・農業従事者の減少・高齢化に伴う低未利用の農地の拡大や担い手の減少に歯止めをかけるため、後継者の育成や新規就農者の就農支援、中心的な農業者に対する施設・機械の整備や経営に対する支援が必要となっています。
- ・現在の農業機械に対応できない小区画の農地や分散している農地も多く、基盤整備事業などを通じて、生産性の高い圃場を整備する必要があります。特に、主食用米は国内需要量の減少が長期的な傾向であり、これによる収益力の低下を補うため労働生産性向上の実現が求められています。
- ・厳しい産地間競争や輸入農産物との競合などで従来の生産構造での収益性の確保が難しくなっており、市場ニーズを的確に捉えた競争力の高い品目の生産が必要です。農産物加工についても、需要者の求める情報を商談会シートとしてパイヤーに提供するなど、市場関係者との調整や積極的な商品開発を行う農業者への支援が望まれています。
- ・一部の地域では、耕作放棄地の拡大や温暖化等の影響により、これまでみられなかった有害鳥獣や外来生物などによる農作物被害の拡大が懸念されています。

#### ② R2・3年度に実施した事業、成果

- ・中心的な担い手として期待される認定農業者22名（R2年度14名、R3年度8名）に対し、農業経営改善計画の達成に向け、機械や設備等の購入経費を一部助成しました。
- ・新規就農に必要な機械や資材等の導入経費などの初期投資について、新規就農者7名（R2年度4名、R3年度3名）に費用の一部を助成しました。なお、就農希望者に対するきめ細かな就農相談や農業委員会と連携した農地のあっせんなどにより、市外在住者も含め9名（R2年度7名、R3年度2名）が新たな農業者として市内で就農しております。
- ・稲作農家の経営安定のために、主食用米のみに頼らない生産（飼料用米やWCS用稲、米粉用米、加工用米など非主食用米等への転換）を推進しました。（R2年産は約231ha、R3年産は約300ha）
- ・競争力のある農業生産を促進するため、農産物等の販売促進費用を一部助成（R2年度2名）するとともに、農産物等を加工する際の機械導入を一部助成（R2年度1名、R3年度3名）しました。なお、商談会シートについては、大規模な商談会がコロナ禍で中止となり未作成ですが、需要者からの個別相談についてニーズに合わせた農業者を紹介しました。
- ・農地の生産性の向上を目的として、担い手（認定農業者、新規就農者）への農地集積や農地整備に対し助成（R2年度約65ha、R3年度約42ha）を行いました。
- ・農地の保全や多面的機能（自然環境の保全等）の維持・発揮のため、農業者を含む地域住民で組織する23団体を支援するとともに、有害鳥獣対策としてイノシシ対策を拡大し、農作物を守るための電気柵購入（R2年度5件、R3年度6件）やわな免許の取得補助（R3年度2件）に対する助成を行いました。

#### ③ 施策の方向性

- ・競争力のある農業経営を目指す認定農業者を育成します。
- ・新たな担い手となる新規就農者を育成し支援します。
- ・収益性の高い農業を実現のため、商談会シート活用などを通じて農業の6次産業化を支援します。
- ・市内農業の中心である水田経営において主食用米から他の作物への転換を推進します。
- ・佐倉の農畜産物を啓発し、市内各直売所や小売業者などでの販売の拡大を支援します。
- ・生産性の高い圃場を創出するための基盤整備を推進します。
- ・地域における話し合い等により地域の農業の在り方についての合意形成ををサポートします。
- ・農地や農業用水等の資源の保全管理に取り組む活動団体を支援します。
- ・有害鳥獣や特定外来生物などによる農作物被害を防止するため、原因となる動植物の捕獲や駆除の支援します。

#### ⑤ その他、R2・3年度のトピック等

##### 【R2】

- ・9月に台風15号・10月に台風19号と豪雨災害が発生し、農業用施設が広範に被害を受けたことから、復旧に対する補助金を交付しました。（R1～R3継続事業：186件）
- ・9月には、千葉ロッテマリーンズの地域密着イベントであるALL for CHIBA 佐倉市（通称：佐倉市デー）にて、佐倉の農業の周知を目的とした振る舞いイベントを開催しました。（先着1,000名様に佐倉産「やまと芋」1個と佐倉産米のふさこがね2合を配布。R3も実施）

##### 【R3】

- ・農業を含めた市内産業の活性化と発展に向け、従来は個別の開催であった「佐倉アグリフォーラム」と「佐倉市産業まつり」について、11月に「佐倉・産業大博覧会」として合同開催しました。来場者数は出展者及び関係者も含め2日間で約1万人が参加し、市内の農業者から21団体が出展しました。

## 4. 観光振興

第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標 (KPI)	基準値 (H30)	R1	R2	R3	R4	R5	目標値 (R6)
観光入込客数（イベントを除く）	147万人／年	123.3万人／年	88.6万人／年				156万人／年
観光協会の情報発信への「いいね」数	56,752いいね	51,014いいね	28,406いいね				

### ① 現在の課題

- 平成28年4月に、城下町佐倉の街並み等が日本遺産「北総四都市江戸紀行～江戸を感じる北総の町並み～」に認定されたものの、町並みの変容や古民家の喪失が進行しています。また、観光客の滞留時間の増加や回遊性の向上による消費喚起の取組が求められています。
- 佐倉ふるさと広場は、イベント期間中は多くの観光客で賑わいますが、イベントが無い時期は来場者が少なく、年間を通じ観光客を呼び込むことが求められています。
- 市外での佐倉市の認知度は低く、魅力的な観光商品の造成や営業活動の強化、情報発信の充実が求められています。

### ② R2・3年度に実施した事業、成果

- 千葉県及び日本遺産の4都市で、教育旅行のプロモーションを行い、多数の学校の佐倉市来訪がありました。（R2：13校743名、R3.12末現在：34校2,316名）
- 観光ランドデザイン「観光Wコア構想」に基づき、佐倉ふるさと広場の拡張に向けた事業を開始しました。（R2：用地測量、R3：基本計画の策定）
- 観光ランドデザイン「観光Wコア構想」に基づき、新町地区の活性化に向けた今後の方向性を検討するため、地元事業者・住民へのヒアリングを行いました。（R3）
- コロナ禍での観光ニーズの変化を踏まえ、ホームページ「マイクロツーリズムのすすめ」を立ち上げました。（R2）
- 印旛沼でカヤック体験が出来る社会実験「水辺体験プロジェクト」を実施しました。（R2：参加者55名）
- 訪日外国人の受入環境整備の一環として、武家屋敷と旧堀田邸に多言語案内看板を設置しました。（R2）
- 新型コロナウイルス感染症の拡大で「ふるさと広場」のフラワーフェスタはR2に中止となりましたが、R3に再開しました。（R3来場者：4月チューリップ100,000名、7月ひまわり35,000名、10月コスモス25,000名）
- 新型コロナウイルス感染症対策を施し、市内10ヶ所から同時に花火の打ち上げを行う「分散型花火大会」を開催しました。（R3）
- 新たな地域観光資源の掘り起こしとして「雷電キャンペーン（スタンプラリー・物産展）」を開催しました。（R3：スタンプラリー参加者1,811名、物産展来場者3,600名）

### ③ 施策の方向性

- 千葉県及び日本遺産の4都市が連携して、日本遺産の周知、地域の特性を活かした観光誘客に取り組みます。
- 観光ランドデザイン「観光Wコア構想」に基づき、以下のとおり、集客・消費の核となる観光拠点を整備します。
  - 1)歴史観光の拠点である城下町地区で、古民家の有効活用を進め、滞留時間の増加や回遊性の向上を図ります。
  - 2)豊かな自然を有する印旛沼周辺で、ふるさと広場の拡張・整備を進め、年間を通じて観光客が訪れるようにします。
- 既存のイベントの内容を充実するとともに、新たなイベントの開催など、消費や回遊につながる仕組みを構築します。
- ターゲットに合ったモデルコースや体験プログラム等の商品造成、営業活動の強化、ICTを含めた様々なメディアを活用した情報発信等を行います。

### ⑤ その他、R2・3年度のトピック等

#### 【R2】

- 5月にホームページで「マイクロツーリズムのすすめ」を立ち上げ。
- 10月に印旛沼で社会実験「水辺体験プロジェクト」を実施。
- 12月に武家屋敷と旧堀田邸で多言語案内看板を設置。

#### 【R3】

- 10月に分散型花火大会を開催。
- R4.1～2月に雷電キャンペーン（スタンプラリー・物産展）を開催。